

## 職業実践専門課程の基本情報について

|              |   |                |  |         |                 |
|--------------|---|----------------|--|---------|-----------------|
| 学 校 名        | 設置認可年月日   | 校 長 名          | 所 在 地  |         |                 |
| 日本児童教育専門学校   | 1984年4月2日   | 小林 光俊          | 〒169-0075<br>東京都新宿区高田馬場1-32-15<br>(電話) 03-3207-5311  |         |                 |
| 設 置 者 名      | 設立認可年月日   | 代 表 者 名        | 所 在 地  |         |                 |
| 学校法人<br>敬心学園 | 1986年4月11日  | 小林 光俊          | 〒169-0075<br>東京都新宿区高田馬場1-32-15<br>(電話) 03-3207-5311  |         |                 |
| 目 的          | 総合子ども学科は子どもに関する専門知識と技術を身に付け、卒業と同時に保育士資格・短大通信教育併修による幼稚園教諭二種免許を取得することを目的とする。3400時間に及ぶ授業を通じて子どもの成長に永く貢献できる保育士・教育者を育てる。   |                |  |         |                 |
| 課 程 名        | 学 科 名   | 修業年限<br>(昼、夜別) | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数  | 専門士の付与  | 高度専門士の付与        |
| 児童教育専門課程     | 総合子ども学科   | 昼間4年           | 3400単位時間   | —       | 平成20.2.29告示第15号 |
| 教育課程         | 講義  | 演習             | 実験   | 実習      | 実技              |
|              | 990単位時間   | 2460単位時間       | 0 単位時間   | 450単位時間 | 90 単位時間         |
| 生徒総定員        | 生徒実員  | 専任教員数          | 兼任教員数  | 総教員数    |                 |
| 160人         | 102人  | 11 人           | 54 人   | 65 人    |                 |
| 学期制度         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■前期：4月1日～9月6日まで</li> <li>■後期：9月7日～3月31日まで</li> </ul>   | 成績評価           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■成績表(有)</li> <li>■成績評価の基準・方法について<br/>S, A, B, C, D, Eで表し、C以上が合格点となり単位を付与される。</li> </ul> |         |                 |
| 長期休み         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■夏 季：8月2日～9月6日</li> <li>■冬 季：12月24日～1月3日</li> <li>■学 年 末：1月28日～3月31日</li> </ul>  | 卒業・進級条件        | <ul style="list-style-type: none"> <li>進級条件：なし</li> <li>卒業条件：142単位以上取得し、卒業要件科目の単位認定により卒業ができる</li> </ul>                        |         |                 |
| 生徒指導         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■クラス担任制(有)</li> <li>■長期欠席者への指導等の対応<br/>個別面談・保護者連絡</li> </ul>   | 課外活動           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■課外活動の種類<br/>ボランティア・学内セミナー</li> <li>■サークル活動(有)</li> </ul>                               |         |                 |
| 主な就職先        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■主な就職先、業界<br/>保育所・幼稚園・児童福祉施設等</li> <li>■就職率 100%</li> </ul>  | 主な資格・検定        | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育士資格</li> <li>幼稚園教諭二種免許</li> <li>社会福祉主事任用資格</li> </ul>                                 |         |                 |
| 中途退学の現状      | <ul style="list-style-type: none"> <li>■中途退学者 11名 ■中退率 11.7%</li> <li>平成 24年4月1日在学者 94名(平成24年4月入学者を含む)</li> <li>平成 25年3月31日在学者 83名(平成25年3月卒業生を含む)</li> <li>■中途退学の主な理由<br/>進路変更、体調不良 など</li> <li>■中退防止のための取組<br/>クラス担任を中心とした学生との個別面談を通して、修学継続への精神的フォローをはかる。</li> </ul> |                |  |         |                 |
| ホームページ       | URL: <a href="http://www.jje.ac.jp">http://www.jje.ac.jp</a>  |                |  |         |                 |

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

総合子ども学科は実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携、実習・就職フェアを通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む)に活かすことを目的とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成25年11月1日現在

| 名 前    | 所 属  |
|--------|--|
| 小林 光俊  | 日本児童教育専門学校 校長  |
| 片岡 輝   | 東京家政大学 名誉教授<br>社会福祉法人 緑伸会 理事長<br>財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長 |
| 新木 真理子 | 社会福祉法人 七施 育正保育園 園長   |
| 須江 宏行  | 公益財団法人 生長の家社会事業団<br>生長の家神の国寮 児童指導員                         |
| 今泉 良一  | 学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭                                   |
| 菊池 一英  | 日本児童教育専門学校 副校長   |
| 阿久津 撰  | 日本児童教育専門学校 教務部長<br>日本児童教育専門学校 児童教育科学科長                     |
| 中西 和子  | 日本児童教育専門学校 児童教育科学科長  |
| 松森 照幸  | 日本児童教育専門学校 保育福祉科学科長  |
| 柳澤 均   | 日本児童教育専門学校 事務部長  |

(開催日時)

第1回 平成25年11月26日 18:00~19:00

第2回 平成25年12月12日 18:00~19:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学生が主体的に実習に取り組む姿勢を重視し、実習施設を学生自身が開拓し、実習相談室の担当教職員と密な連携を取って選定する。選定の基準は、過去の実習受け入れ実績をもとにして、本校の求める人材育成とのマッチング、及びカリキュラムに沿った指導・援助が行えるかどうかを判断するとともに、学生自身の個性、将来目標、交通条件等に配慮し選定する。また、本校と密に連絡を取り、学生指導ができるシステムが備わっているかも重要な選定基準である。選定後、施設と契約締結し、実習を実施する。

| 科 目 名 | 科 目 概 要  | 連 携 企 業 等                           |
|-------|--|-------------------------------------|
| 保育実習Ⅰ | 実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士及び、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。 | サンライズ青山、向島学園、今井城学園、はなこみち 他<br>計22施設 |
| 保育実習Ⅱ | 実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士及び、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。 | わらべ保育園、さくらんぼ保育園、桜ヶ丘保育園 他<br>計12施設   |
| 教育実習  | 実習は、本校において履修した教科全体の知識・技能を現場において総合的に実践し、応用力を養うことを目的とする。また、体験を通して幼稚園教諭としての自覚を高め、各自の今後の学習課題を探究する契機とする。        | 大島新生幼稚園、内郷幼稚園、<br>他11施設             |

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

研修は、教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させ、本校の理念・目的・目標を達成することを目的とする。

組織の理念実現のため個人の能力を高めることは必須であり、そのためにも組織的に研修を計画し、研修計画の必要性を説明し、納得を得ることに努める。計画の策定にあたっては必要分野・領域を的確に把握し、適切なテーマ・研修計画を設定する。そのために、教職員の専攻分野・担当業務及び本校関連分野に係る団体・企業等の意見を聞き、教職員の経験・能力等を勘案し研修計画を作成し、実施する。

業界分野の変化は法制度の変更によることが多く、制度変更に際し、行政機関等より意見聴取される機会が比較的多いのも業界団体・研究機関である。その業界団体等により実施される研修会・学術大会へ参加することは必須であり、継続的に参加を促すこととなる。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成25年12月3日現在

| 名 前    | 所 属  |
|--------|--|
| 片岡 輝   | 東京家政大学 名誉教授<br>社会福祉法人 緑伸会 理事長<br>財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長 |
| 新木 真理子 | 社会福祉法人 七施 育正保育園 園長   |
| 須江 宏行  | 公益財団法人 生長の家社会事業団<br>生長の家神の国寮 児童指導員                         |
| 今泉 良一  | 学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭                                   |

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

学校ホームページにて公開

URL: <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

学校ホームページにて公開

URL: <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

## 授業科目等の概要

(児童教育専門課程総合子ども学科) 平成25年度

| 分類 |      |      | 授業科目名       | 授業科目概要   | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 |    |          |  |
|----|------|------|-------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|--|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 |             |  |         |      |     | 講義   | 演習 | 実験・実習・実技 |  |
| ○  |      |      | 英語コミュニケーション | ・英語の歌、絵本、ゲームをしながらレッスンプランをアレンジできるように<br>・ClassroomEnglishを身につける<br>・簡単な英作文を書けるように   | 1       | 30   | 2   |      | ○  |          |  |
| ○  |      |      | 体育Ⅰ         | 生きる力となる体力を培うスポーツ・体育は、心身の健康をもたらし、人と人とがコミュニケーションして、喜び楽しむ重要な役割を担っている。それらを取りまく社会、環境を考え、運動生理・発達心理の立場から、よりよくスポーツ・体育を指導していけるよう学ぶ。   | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 体育Ⅱ         | 幼児期は、まず「からだ」が出来ていく基となる時期で、体育あそび及び適切なスポーツを通して、筋力・体力・調整力を付けると共に、明るく健康で、豊かな情操を培えるように保育士の温かく育む姿勢と指導力が求められている。その指導者としての資質を養う。   | 1       | 30   | 1   |      |    | ○        |  |
| ○  |      |      | 日本国憲法       | ・最高法規としての憲法のなりたちを知る。・近代立憲主義の枠組みを理解する。・日本の法の構造を把握する。・論理的思考力を養う。・論理的記述力を養う   | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 児童文学        | ・子どもが楽しみながら、絵本や物語に興味をもてる選び方や関わらせ方を探る。・多くの作品を読み合いながら魅力を探る。・「生きる力」について考える。・絵本や物語の読み聞かせについて学ぶ。・絵本や物語を手がかりに保育活動をイメージする。  | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 情報機器の操作     | ・幼児教育者が持つべき情報の基礎知識を得る。・情報機器を使う教育の利点と問題点を知る。・情報機器の活用法を学び考える。・教育現場でも作成可能なコンピュータによる「動くオリジナルストーリー映像」を作りこれを指導できる能力や創作力を養う。  | 1       | 30   | 2   |      | ○  |          |  |
| ○  |      |      | 保育原理        | ・保育の意義、保育の歴史など保育にかかわる基本的な事項を学ぶ。・保育環境、保育方法などの保育の展開について学ぶ。・保育所保育指針における保育の基本について理解する。・保育の現状と今後の課題について理解する。  | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 教育原理        | 1. 教育に関する基礎的理解を通して、受講生各自の教育観を育む。2. 教育の本質を知ること、教育と人間の発達との関係を知る。3. 教育の実態を歴史的に把握し、そこに現れた教育思想を学ぶ。4. 学校教育の制度と教育実践の基礎理論について理解する。5. 生涯学習社会における教育のあり方を考える。6. 全体を通して、併修学習への対応を考慮して指導を進める。 | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 児童家庭福祉      | 「児童福祉」とは子どもが幸せになるために必要な取り組み全てを指す言葉である。本講義では、その取り組みを支える法律や具体的な児童福祉制度を理解することを目的とする。また現在の子どもの取り巻く環境についても学んでいく。  | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 社会福祉        | ・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。<br>・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。<br>・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。   | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          |  |
| ○  |      |      | 相談援助        | 1. 相談援助の概要について理解する。<br>2. 相談援助の方法と技術について理解する。<br>3. 相談援助の具体的展開について理解する。<br>4. 保育におけるソーシャルワークの活用と事例分析を学ぶ。   | 2       | 30   | 1   |      | ○  |          |  |

|   |  |  |              |   |   |    |   |   |   |  |
|---|--|--|--------------|---|---|----|---|---|---|--|
| ○ |  |  | 社会的養護        | ・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。・子どもの権利について理解を深める。・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。・社会的養護の現状と課題について理解し、保育士の役割を考える。     | 1 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 保育者論         | ・保育者の役割と倫理について理解する。・保育者の制度的な位置づけを理解する。・保育者の専門性について考察し、理解する。・保育者の協働について理解する。・保育者の専門職的成長について理解する。               | 1 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 保育の心理学Ⅰ      | 保育の心理学Ⅰでは、子ども一人一人の心身の発達過程を、保育という場の中でとらえ保育を実践する際に必要となる心理学の知識を習得し、子どもを理解する力を深めることを目標とします。                       | 1 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 保育の心理学Ⅱ      | 保育の心理学Ⅰで得た知識を基に、保育現場での子どもの生活に沿いながら、実践で生かせるように努めます。また、発達援助について学び、子どもの発達課題に応じた援助やかかわりができることを目標とします。             | 1 | 30 | 1 |   | ○ |  |
| ○ |  |  | 子どもの保健Ⅰ<br>a | 子どもの身体発育及び生理機能、運動機能、精神機能の発達について理解する。子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。                 | 1 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 子どもの保健Ⅰ<br>b | 1. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。<br>2. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。<br>3. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。        | 1 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 子どもの保健Ⅱ      | “子どもの保健Ⅰ”で学習した知識をもとに、保育現場で保健活動を展開できる基礎を身につける。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。   | 2 | 30 | 1 |   | ○ |  |
| ○ |  |  | 子どもの食と栄養     | 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。子どもの発育と発達と食生活の関連について理解を深める。食育の基本とその内容、食育のための環境を理解する。                        | 1 | 30 | 2 |   | ○ |  |
| ○ |  |  | 家庭支援論        | 1. 家族と社会環境の変化<br>2. 家族援助を必要とする背景<br>3. 家族の意義や機能<br>4. 援助を必要とする家族<br>5. 家族援助の実際—子育て支援のための社会資源                  | 2 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 保育課程論        | ・保育課程の編成と指導計画の作成を学び、子どもの現在の充実と将来を展望した計画案を習得する。・年齢別の発達の主な特徴と保育者の援助の留意点を学ぶ。・子どもひとり一人の発達、保育の展開を学び、実践につながる知識を深める。 | 2 | 30 | 2 | ○ |   |  |
| ○ |  |  | 保育内容総論       | ・保育所保育指針における「ほいくの目標・内容」「子どもの発達」等々保育の全体的な構造を学び理解する。・子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的に学ぶ                       | 1 | 30 | 1 |   | ○ |  |
| ○ |  |  | 保育内容演習・健康    | 子どもの心身の発達について、知識を得、健康に関する理解を深める。自分が常に保育の現場に立った時を想定し、健康とは何かを理解し実践力を身につける。保育者として実践的アイデア・工夫を生みだす、基礎を作る。          | 2 | 30 | 1 |   | ○ |  |
| ○ |  |  | 保育内容演習・人間関係  | ・幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、保育内容に示される「人間関係」の領域において育むものについて理解する。・乳幼児期に親・保護者・友だちと関わりながら育む発達課程の必要性を学ぶ。                  | 2 | 30 | 1 |   | ○ |  |
| ○ |  |  | 保育内容演習・環境    | ・幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、保育内容に示される「環境」の領域において育むものについて理解する。<br>・人、もの、場などが相互に関連し、子どもの生活を豊かにする環境構成を理解する。             | 2 | 30 | 1 |   | ○ |  |

|   |  |               |   |   |    |   |  |   |  |
|---|--|---------------|---|---|----|---|--|---|--|
| ○ |  | 保育内容演習・言葉     | ・言葉の獲得に関する領域「言葉」において目指されている事項を理解する。<br>・コミュニケーションの手段である言葉の発達を知る。<br>・領域「言葉」のねらいをどのように達成していくか、具体的に学習する。    | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育内容演習・表現     | 子どもの発達を考えながら、保育に関わる表現活動全般を取り上げ、あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ、体験し、それを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を研究します。          | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 乳児保育          | ・乳児保育の特徴や意義を理解し、実際の保育現場でどのように乳児に保育するのかを学ぶ。<br>・乳児一人ひとりの個々の発達をふまえながら保育することの重要性について理解する。                    | 2 | 30 | 2 |  | ○ |  |
| ○ |  | 障害児保育         | ・様々な障害について個別的に基本的な知識を学ぶ。・障害として発症している原因やメカニズムについて学び、理解を深める。・各障害は具体的にどのような姿として表現されるかという子どもの生の状態を把握する。       | 2 | 30 | 2 |  | ○ |  |
| ○ |  | 社会的養護内容       | ・子どもの権利擁護、保育士の倫理等、事例を通して学び、保育士や施設の役割について理解する。<br>・社会的養護の実践について学ぶ。<br>・支援計画を作成し、施設でのケアの内容やその意図を学ぶ。         | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育相談支援        | 保育所や幼稚園や地域のさまざまな現場で子どもと家族を応援しようとするときに、今よりほんの少しでも視野が広がり気持ちになるのに役立つかも知れない考え方や方法について、一緒に学んでいきたい。             | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育表現技術・幼児体育 I | ・幼児の心身の発育・発達に即した、幼児体育の理論を学びます。・幼児体育の基本である“あそびを中心”とした指導法を実践します。・子どもの身近にある運動用具の安全な使用方法・管理の方法を身につけます。        | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育表現技術・楽典     | ・音楽の基本的な構成要素を理解する。<br>・楽譜の読み方とピアノ演奏の基礎を学ぶ。<br>・簡単な合奏を通して、子どもたちと音楽を分かち合うために何が必要かを考察する。                     | 1 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育表現技術・ピアノ I  | ・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル50番程度）。・簡単な子どもの歌を生き生きと弾きながら歌えるようになること。・自ら喜びを持って音楽表現を行えるようになること。                        | 1 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育表現技術・造形 I   | 絵画・工作等の実技を通して、基本的な素材（画材）と技法について知る。<br>創造力を働かせる楽しさを感じ、完成させる達成感を味わう。  | 1 | 30 | 1 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育実習 I-1      | 実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。 | 2 | 90 | 2 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育実習 I-2      | 実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。 | 3 | 90 | 2 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育実習指導 I a    | ・施設実習の意義と目的について理解する。<br>・施設実習の特性について理解する。<br>・施設実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について理解する。                             | 2 | 60 | 2 |  | ○ |  |
| ○ |  | 保育実習指導 I b    | ・学習経験である重要な保育実習を有意義なものとするために必要な事項を学び、理解する。<br>・保育所の実際、実習ノートの記載方法、実習段階に応じた活動内容などの具体的な項目について学ぶ。             | 2 | 60 | 2 |  | ○ |  |

|   |   |              |  |   |    |   |   |   |   |
|---|---|--------------|--|---|----|---|---|---|---|
| ○ |   | 保育実践演習       | ・学習経験である重要な保育実習を有意義なものとするために必要な事項を学び、理解する。<br>・保育所の実際、実習ノートの記載方法、実習段階に応じた活動内容などの具体的な項目について学ぶ。                      | 2 | 30 | 2 |   | ○ |   |
|   | ○ | 教育史          | 日本における子どもの生活と子どもに対する教育の歴史を学習することにより、教育実践に対する歴史的視点を獲得する。  | 2 | 30 | 2 | ○ |   |   |
|   | ○ | 地域援助論        | ・地域に暮らす人々の生活に目を向ける。<br>・社会福祉法に掲げられた地域福祉推進の理念について理解する。<br>・地域に向けた援助実践の支えとなる諸理論について学ぶ。                               | 3 | 30 | 2 | ○ |   |   |
|   | ○ | 保育臨床心理学      | 1. 自分の「こころ」に触れる体験を通して、自分自身を知り、自分と向き合う。2. 他者の「こころ」に触れる体験を通して、自己理解、他者理解への考察を深める。3. 子ども達の心の世界について学び、知る。               | 3 | 30 | 2 | ○ |   |   |
|   | ○ | 保育カウンセリング概論  | カウンセリング技法を学び、習得することによって、以下のことが実践できる力を養う。   | 3 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   | ○ | 子どもの食と栄養実習   | 1. 健康生活の基本である食生活について学ぶ。<br>2. 栄養バランスのとれた献立を理解し、作成できるよう学ぶ。<br>3. 小児の成長と食生活の関係を理解する。                                 | 2 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   | ○ | 教育課程総論       | 1. 保育課程・教育課程の意義を認識する。<br>2. 日本の保育／幼児教育の歴史の中で、保育内容の変遷を学ぶ。3. 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』の特徴を理解する。                            | 3 | 30 | 2 | ○ |   |   |
|   | ○ | 視聴覚教育        | 1. 現代日本の幼児の生活と視聴覚メディアとの関わりについて、その実態を認識する。<br>2. 多様な視聴覚メディアについて基本的な理解を得る。   | 3 | 30 | 2 | ○ |   |   |
| ○ |   | 保育表現技術・幼児体育Ⅱ | 幼児体育Ⅰで学んだ内容を基本として、更に実践的スキルを身につけます。運動遊具（マット、巧技台、ボールetc）の使用方法を学びます。固定遊具を使う体育あそびの教々を学びます。                             | 2 | 30 | 1 |   | ○ |   |
| ○ |   | 保育表現技術・ピアノⅡ  | ・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル60番程度）。<br>・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。<br>・自ら喜びを持って音楽表現を行えるようになること。                          | 1 | 30 | 1 |   | ○ |   |
| ○ |   | 保育表現技術・造形Ⅱ   | 幼児造形の枠に捕らわれずに造形表現の実習を行い、表現について理解を深め柔軟な発想を養う。   | 1 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   | ○ | 保育実習Ⅱ/Ⅲ      | 実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。          | 3 | 90 | 2 |   |   | ○ |
|   | ○ | 保育実習指導Ⅱ/Ⅲ    | 保育実習Ⅱの課題に向けて、具体的方法を深める。部分・責任実習は指導案計画案に基づき、実際に実施する。貴重な実習経験を共有し、保育者・保育現場へのさらなる理解を深める。                                | 3 | 30 | 1 |   | ○ |   |
| ○ |   | 実習基礎技能Ⅰ      | 実習を行う上で求められる基礎的な力、「読む」「書く」「見る」「聞く」「話す」「考える」「対人関係（コミュニケーション能力）」の力が自分に備わっているかを自己点検し、足りない力をきちんと習得。自信をもって実習に臨めるよう準備する。 | 1 | 30 | 1 |   | ○ |   |

|   |  |   |           |  |   |     |   |  |   |   |
|---|--|---|-----------|--|---|-----|---|--|---|---|
| ○ |  |   | 実習基礎技能Ⅱ   | ・実習の目的を理解し実習生として必要な姿勢を身に付ける。<br>・特に施設実習の概要について理解する。<br>・施設で生活している子どもや利用者の抱えている課題や背景について理解する。                               | 1 | 30  | 1 |  | ○ |   |
| ○ |  |   | 保育実習指導Ⅰc  | ・保育所実習に向け、具体的な実習課題を明確化する。<br>・子どもの発達・子どもとの関わりを理解し実習生としての実践を具体的にイメージする。・指導計画の立案・グループでの演習。・保育教材の製作及び発表。                      | 3 | 30  | 1 |  | ○ |   |
| ○ |  |   | 教育実習      | 実習は、本校において履修した教科全体の知識・技能を現場において総合的に実践し、応用力を養うことを目的とする。また、体験を通して幼稚園教諭としての自覚を高め、各自の今後の学習課題を探索する契機とする。                        | 4 | 180 | 4 |  |   | ○ |
| ○ |  |   | 教育実習研究    | 幼稚園教諭実習に対する事前学習として、実習目標を明確にする。実習生としての自覚・心構えを修得する。幼稚園の実際の理解を進め、記録方法を学ぶ。   | 4 | 30  | 1 |  | ○ |   |
| ○ |  |   | キャリアデザインⅠ | ・「自分らしい生き方」(キャリア)を探し出します。・キャリアカードの作成をします。・諸先輩方のキャリアを学びます。・就職というキャリアについて学びます。・夏休みのキャリアアップについて学びます。                          | 1 | 30  | 1 |  | ○ |   |
| ○ |  |   | キャリアデザインⅡ | ・就職活動に向けて基礎的準備をします。・マナーと常識について学びます。・先輩から就職活動の裏技を学びます。<br>・面接試験に向けてスキルアップをします。・履歴書記入のノウハウを学びます。                             | 3 | 30  | 1 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 児童厚生概論    | 児童厚生施設は、乳幼児から中高生まで、自らの意志で来館する(自由来館)施設である。近年社会から施設への期待が高まってきている。そこで働く職員は、子ども達にどう理解されるか? その中身が問われている。ソーシャルワーカーとしての視点が欲しい。    | 3 | 30  | 2 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 保育産業論     | 震災・経済不安…目まぐるしく変わる社会の動きを見据えながら、子どもを中心とする家族に関わる産業について、その実態を知り、理解を深めていく。また消費社会に生きる私たちに必要な情報の捉え方を学んでいく。                        | 4 | 30  | 2 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 教育心理学     | ・教育心理学の基本的な知識を身につけながら、子どもたちへの適切な関わり方を学ぶ。<br>・さまざまな問題を抱えた子どもたちへの対応を、具体的に学んでいく。  | 1 | 30  | 1 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 児童ケースワーク  | 現代の社会状況や、子どもの発達を支える社会の仕組みについての理解を求めた上で、乳幼児期の子どもの問題について、保育者としてどのように関わっていくことができるのかを考え、他者の意見を聞きながら柔軟に対応できる姿勢を身につけていくことを目標とする。 | 4 | 30  | 1 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 児童文化      | 現代社会で未来を託す子どもへの期待と、とりまく環境を把握し、問題点を探ります。児童観の変遷をたどり、子どもと社会の関係を学びます。自分の幼年期を顧みて、子どもと同じ視点の必要性を確かめます。                            | 2 | 30  | 1 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 保育あそび論    | 1. 保育にいかせる遊びの引き出しを増やす。<br>2. 自分自身が遊びを楽しむ。<br>3. 遊びを変化させたり、発展させる柔軟性を身につける。  | 3 | 30  | 2 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | 創作うたあそび   | 遊んで作ると面白い。まじめに作るのも面白い。いいかげんでも面白い。心の奥にかくれている「遊び心」を解放し、自分の世界を広げると、発見がある。自分にこういう世界があったのか、思いもよらないものとの出会い。                      | 3 | 30  | 1 |  | ○ |   |
|   |  | ○ | おもちゃ論     | 1. 子どもの遊びの中にある“おもちゃ”が、楽しさとともに子どもの育ちに大きな役割を果たしていることを理解する。<br>2. 多種多様なおもちゃについて考えるための基本的な整理を行う。                               | 4 | 30  | 2 |  | ○ |   |



|   |  |   |               |   |   |    |   |   |   |   |
|---|--|---|---------------|---|---|----|---|---|---|---|
|   |  | ○ | 国語            | 子どもの想像世界を豊かにする児童文学を学び、国語の力を養います。児童文学が、どのようにして成立したかをたどり、子どもと共に読む作品を選び、保育の現場で活用する方法を考察します。                      | 3 | 30 | 2 | ○ |   |   |
|   |  | ○ | 保育表現技術・声楽Ⅰ    | 童謡を子どもたちと楽しく歌うことは、連帯感や集中力を高め、生活指導の推進力になります。歌唱法・発声法の基礎を学び、表現豊かな歌唱ができるようにしましょう。                                 | 2 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | 器楽特別講座Ⅰ       | ・ピアノを中心とした器楽の応用的な演奏技術を学ぶ。<br>・子どものうたや童謡のレパートリーの拡充。  | 4 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | 器楽特別講座Ⅱ       | ・ピアノを中心とした器楽の応用的な演奏技術を学ぶ。<br>・子どものうたや童謡のレパートリーの拡充。  | 4 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | 保育に生かすやさしい手芸  | 軍手やフェルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をします。玉留め・並縫いなど、手縫いの初歩の段階から説明しますので、針を持つのが不慣れな人も楽しみながら作ることができます。              | 2 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | 人形劇           | 1. うちわ型平面人形劇ペープサートを作る、演じる、観せる実技で表現力を育てる。2. 相手にはっきり届く声が出せるように、語りかけができる声をつくる。3. ペープサートを保育に生かし、楽しみづくりの名人になってほしい。 | 2 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | 手話Ⅰ           | ① 手話の学習を通し、聴覚障害に関する理解を深める。② 手話の基礎知識を学ぶ。③ 聴覚障害の基礎知識を学ぶ。  | 4 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | 手話Ⅱ           | 1. 身振りや手話を通して伝える、伝わる喜びの修得。<br>2. 手話を覚えて会話の楽しみを修得。<br>3. 実際に覚えた手話で聴覚障害者との交流学习を体験。                              | 4 | 30 | 1 |   | ○ |   |
|   |  | ○ | レクリエーション論     | この講座のプログラムは、日本レクリエーション協会「レクリエーション・インストラクター」の受験の一部単位と認められます。指導者にふさわしい性格、教養を身につけた人は、実際に合宿して、実技の体験をします。          | 3 | 30 | 2 | ○ |   |   |
|   |  | ○ | レクリエーション実技    | レクリエーション実技指導の方法、実技の取り上げ方、対象別に実技を通してゲームのルール・どう楽しませるかを修得して行きます。   | 4 | 30 | 1 |   |   | ○ |
|   |  | ○ | レクリエーション種目の実技 | この講座のプログラムは、日本レクリエーション協会「レクリエーション・インストラクター」の受験の一部単位と認められます。指導者にふさわしい性格、教養を身につけた人は、実際に合宿して、実技の体験をします。          | 4 | 30 | 1 |   |   | ○ |
| ○ |  |   | ゼミナールⅠ        | 数種類のゼミから自身の興味ある分野や、極めたい分野を受講する。その中で学生自身が主体的に発表する場などを設け、専門性を身に付ける。   | 3 | 30 | 2 |   | ○ |   |
| ○ |  |   | ゼミナールⅡ        | ゼミナールⅠに引き続き研究をおこない、自身の専門性を高める。  | 4 | 30 | 2 |   | ○ |   |
| ○ |  |   | 卒業研究          | ゼミナール修了後、研究発表をおこなう。   | 4 |    | 6 |   | ○ |   |

|  |  |   |              |  |   |    |   |  |   |  |
|--|--|---|--------------|--|---|----|---|--|---|--|
|  |  | ○ | リズム・ダンスあそび   | ・保育の中で、即、実践できるよう「自分自身を知り、元気！勇気！笑顔」とは、どのようなことかを感じ学ぶ。<br>・リズムとは何か 体を動かすことの楽しさの中から学ぶ。                                   | 3 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 教材技法         | 乳幼児教育の専門家としての自分から工夫し、創造し、探究し、大きな表現力、創造力を培う。一人一人プランを組み立て、作品を完成させることを目標とする。  | 3 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 絵画造形技法       | 発達に合った活動を通して子どもが表現する喜びを味わうことができるような指導法を知る。<br>子どもの興味や関心から生まれる活動について知る。   | 3 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 運動あそび        | ・運動あそびのねらいと意義を学びます。<br>・各年齢発達に合わせた指導方法を学びます。<br>・実際に身体を動かして、様々な運動あそびを身につけます。   | 3 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 幼児の野外活動      | ・野外活動、あそび、自然の中で、まずは自分自身が楽しむ。<br>・野外にて実践的な知識、技能を身につける。<br>・野外活動の必要性を理解し、自己の発想力、創造力、企画力を養う。                            | 4 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 体育心理学        | ・幼児教育で活用できる体育心理学の知識を学ぶ。<br>・動機づけについて学ぶ。<br>・運動学習、練習についての知識を深める。<br>・リラクゼーションの重要性について。<br>・集中力を高めるには。                 | 4 | 30 | 2 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 運動生理学        | 1. 運動生理学の基礎知識を得る。2. 運動生理学的観点から見た幼児と大人の差異について理解を深める。3. 上記1、2を保育現場で応用できる場面について論議する。                                    | 3 | 30 | 2 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 野外レクリエーション   | ・人間関係や自然観を育成における「野外レクリエーション」の意義を理解する。<br>・「野外レクリエーション」の安全で有意義な実施方法を学ぶ。<br>・野外での活動に欠かせない「環境教育」について理論と方法を学ぶ。           | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 保育表現技術・ピアノⅢ  | ・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル72番程度）。<br>・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。<br>・実習に向けての準備と童謡レパートリーの拡大。                              | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 保育表現技術・ピアノⅣ  | ・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル80番程度）。<br>・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。<br>・実習に向けての準備と童謡レパートリーの拡大。                              | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 保育表現技術・声楽Ⅱ   | 季節のうた、行事のうた、生活のうた等、現場で歌われる歌を演習研究し、指導法を研究しましょう。グループや個人での発表を通して互いに聞き合い、より良い指導方法を身につけていきましょう。                           | 2 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 保育表現技術・音楽リズム | ダンス、歌あそび、運動あそび等、様々なあそびを実習し、受講者自身が楽しみながらスキルアップしていく。さらに、後半はそれらを応用し劇をつくり、展開する力、友達と協力しながらひとつのものを作りあげていく力を養っていく。          | 3 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 音楽表現         | 前半は「手遊び歌」を通して、音楽に合わせて体を動かす楽しさを伝えると同時に、子ども達のリズムの揃え方を学ぶ。<br>後半は、それぞれの楽器の基礎知識・管理の仕方を理解し、アンサンブルの実践をし、それを子ども達にどう伝えるかを考える。 | 4 | 30 | 1 |  | ○ |  |
|  |  | ○ | 教材造形基礎       | ・子どもの造形表現活動について理解し、その教材の基本的知識を学ぶ。<br>・造形製作の意義とその目標について理解する。<br>・子どもの造形能力の発達段階について理解し指導方法を習得する。                       | 3 | 30 | 1 |  | ○ |  |

|    |  |   |                |   |     |     |      |       |     |     |
|----|--|---|----------------|---|-----|-----|------|-------|-----|-----|
|    |  | ○ | 造形演習 I         | 学生がそれぞれ所持するであろう創造性の「カケラ」について言及し、自らの方法でそれを形にする「ちから」を実習を通して身につけていく。   | 2   | 30  | 1    |       | ○   |     |
|    |  | ○ | 造形演習 II        | 創造力を働かせる楽しさを感じ、完成させる達成感を味わう。<br>一般的美術表現についても学び、対象とする表現の枠を広げて創造力を養う。   | 3   | 30  | 1    |       | ○   |     |
|    |  | ○ | 絵画技法           | ・幼児期の造形表現の作例を鑑賞、観察する。<br>・幼児期の造形表現の発達段階における各特徴を理解する。<br>・幼児期の造形表現の発達段階に現れる類型を擬似的に体験する。                          | 2   | 30  | 1    |       | ○   |     |
|    |  | ○ | 絵本論            | ・絵本の表現ということにウエイトをおいて、絵本とは何かについて学ぶ。<br>・すぐれた絵本作家の作品にできるかぎり多く触れ、豊かな絵本世界を自分のものにする。<br>・楽しみながら絵本を見る（読む）目を育てる。       | 4   | 30  | 2    | ○     |     |     |
|    |  | ○ | 子どもと物語         | 子どもにとって物語は、はじめて出会う「絵本」からはじまり、幼年童話へ発展します。子どもの想像世界を豊かにする物語を、児童文学史に沿って論じます。学生は、作品を選び、その特色や背景などを考察してまとめて、発表し話し合います。 | 3   | 30  | 2    | ○     |     |     |
|    |  | ○ | 語りと読み聞かせ       | 様々な語り・おはなし遊び・読み聞かせを自ら体験し楽しみながら、子どもとおはなしの世界を探っていく。子どもが喜び、満足する良質なおはなしとは？年齢や成長段階に合わせ工夫できることを学ぶ。                    | 2   | 30  | 1    |       | ○   |     |
|    |  | ○ | 絵本創作           | 保育関係の仕事を目指す人にとって、絵本は基本的なアイテムのひとつと言えると思います。自作の絵本を製本までできたら楽しいのでしょうか。また、保育にもきつと役立つはずで。この授業では、そのような手作り絵本を制作します。     | 4   | 30  | 1    |       | ○   |     |
|    |  | ○ | 紙芝居            | ・いろいろな紙芝居を観て、楽しみ学ぶ。<br>・紙芝居の演じ方を学び、実演を体験する。<br>・紙芝居の歴史と、世界へのひろがりを学ぶ。  | 4   | 30  | 1    |       | ○   |     |
|    |  | ○ | 劇遊び            | この授業では、「劇あそび」（ドラマ）について、その取り組み方や保育者の関わり方を、創作や実技を通して体験的に学習していくとともに、「よそ行きの劇」（シアター）との取り組み方のちがいについても理解を深めていきます。      | 4   | 30  | 1    |       | ○   |     |
| ○  |  |   | クラスルーム I a～IVb | クラス活動を通じて、保育者に必要とされるコミュニケーション力、自主性、協調性、責任感、協働の素質を養い、高める。  | 全   | 240 | 8    |       | ○   |     |
| ○  |  |   | 併修学習 I a～IVb   | 幼稚園教諭免許状取得に向けて、併修学習を促進する  | 全   | 240 | 8    |       | ○   |     |
| 合計 |  |   |                |   | 120 | 科目  | 3990 | 単位時間( | 170 | 単位) |